
IS～インフィニットストラトス 大いなる自由と仲間たち～

永遠なる自由の剣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS〜インフィニットストラトス 大いなる自由と仲間たち〜

【Nコード】

N0974Z

【作者名】

永遠なる自由の剣

【あらすじ】

ひよんなことからISの世界に来てしまったキラたち、彼らは一体どうなってしまうのか！

プロローグ（前書き）

初めまして。永遠なる自由の剣と申します。初めて小説を書いたので、文章として成り立っていないかったり、話の展開が急な場合があると思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

プロローグ

デュランダルがこの世を去り2年が経とうとしていた。
世界は一時的でも平和を取り戻しコーディネーター、ナチュラルともに関係なく暮らしていた。

この日、戦争を終結へと導いた英雄キラ ヤマトと元プラント最高評議会議長ラクスクラインはオーブとの新たな同盟を結ぶ為宇宙へと飛びだっていた。

「お久しぶりですわ、久しぶりにカガリさんに会えるんですね。」
「ホントに久しぶりだね、ラクスは今から楽しそうだね。」
ラクスと呼ばれたその人は満面の笑みで「はい！」と答えた。

カガリとラクス、キラたちが会うのは2年振りなのだ。楽しみなのは仕方ないだろう。

そんな世間話をしていた所に二人の男女がやって来た。

「こんな所に居たんですか？キラさん。」
「やあシン、ルナマリア」

そうルナマリアとシンだった。前大戦のあとシンとルナマリアはラクス直属の部隊、ヤマト隊に所属したのだった。
今回はラクスの護衛としてキラたちに着いてきたのだった。

「もうじき約束の場所に着くみたいですよ。どうやらアスランも一緒みたいです。」

「アスランが」

キラは思い出す、自分とともに戦争を終結へと導いた大切な親友の顔を。

「アスラン元気かな？」

「元気だと思えますわ」

キラの問いにラクスが答えたその時、戦艦に衝撃が走った。

「な、なんだ?! 敵襲?!」

状況が全く理解できないままキラたちはブリッジを目指して走り出した。

「バルドフェルドさん! 一体何が?!」

「わからん! だが何かに引っ張られているみたいだ!」

バルドフェルドと呼ばれたその人は現在の状況を簡単に説明した。

そして、

「キラはラクスを連れてフリーダムを発信、シン、ホークはその護衛に回れ!」

バルドフェルドが焦りながら、指示を出してきた。

「でもあなた方が…」

「なあにすぐに追い付く、だからキラ! ラクスを連れて早く逃げろ。今ラクスを失っては本当の平和はもう来ない。俺たちの希望をけさないでくれ」

そうバルドフェルドはキラたちに笑顔で告げた。

「フリーダム、デスティニー、インパルス速度なら影響を受けずに飛べるハズだ！」

「わかりました、ラクスは僕が必ず守ります！バルドフェルドさん気をつけて」

そう言っけキラたちはカタパルトを屈指した。無論着替える時間などないのでそのまま機体に取り込み、ラクスを膝の上に乗せ、キラ、シン、ルナマリアの順に飛びだった。

外に出てスロットル前回でブーストを吹かし空域を抜けようとしたが全然前に進まなかった。いや、それどころかエターナル同様何かに引っ張られていた。

「どうした？！早く逃げろ4人ととも！」

バルドフェルドが焦りながら通信を入れて来た。

「わかりません！ブースト全開なのですが！」

キラも焦りながら答えた。

「ルナ！大丈夫か？！ルナ！」

「シン……」

インパルスのブーストではこの引力から逃れられないようでドンドン引っ張られていた。

そんなインパルスの手を掴みシンはデスティニーのブーストを吹かしまくっていた。しかし結果は変わらず！ドンドン引き寄せられていった。

キラのストライクフリーダムも同様、引力から抜け出せず吸い寄せ

られていた。

そんな時、3機のすぐ後ろに黒い球体のようなものが現れた。そしてその球体が現れてから通信が不能になり。ついにシンとルナマリアが飲み込まれてしまった。

「シン！ルナマリア！っつ！」

キラは出来る限りのことをやったが全て無意味だった。そうわかった時、キラは覚悟を決めラクスを抱き締めた。最後は愛する人の温もりを感じて迎えたい。そう思ったのだ。

「ごめん…ラクス、こんなところで…終わっちゃうなんて……そしてシンとルナマリアも…」

「キラは頑張りましたわ…そんなに気になさらないで。私は貴方とともにいられるだけで良いのです。シンとルナマリアもその覚悟でいたことでしょう。」

ラクスはキラにそう言い、優しくキスをした。そして耳元で

「愛していますわ、キラ…」

と満面の笑みで言った。

そしてキラも

「僕も愛しているよ。ずっと君の側にいるから」

そう言い力強く抱き締めると、ついに飲み込まれてしまいキラとラクスの意識は途絶えた。

キラたちが消えてしまったあと、オーブ、ザフト両軍の大搜索が行われたのだが痕跡すら見つけられず、死亡したと全世界に告げられたのだった。

カガリとアスランは酷く悲しみ、彼らの為にも戦いを無くそうと決意したのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0974z/>

IS～インフィニットストラトス 大いなる自由と仲間たち～

2011年12月3日19時58分発行